が、後に成學寺と改めた。

ショウガクショ　小學所　明治三年十一月金澤に之を開いて、四民教導の基礎たらしめたものである。その一は卯辰山小學所といひ、卯辰山にあつて前に集學所というたものである。その二は梅本町小學所といひ、その三は高岡町小學所といひ、その四は河原町小學所というて、皆同名の町に在つた。その六を小橋小學所といひ、淺野川小橋西岸にあつて、設立稍遲れた。小學所の教則は上下二等に別ち、講義を上等とし、素讀を下等とした。前者の用書は小學・國史略・十八史略等で、後者は孝經・大學・論語・孟子等であり、外に算術・習字があつた。小學所の維持費は、主として藩費から支出したが、一面有志の醵金と生徒の謝儀とに待つた。四年七月金澤縣となつた後小學所は尙繼續すると共にその數を加へ、五年八月その十一小學所を區學所とした。

ジョウガサキ　城ヶ崎　珠洲郡の南岸に在つて、御舟崎と共に九十九灣の口を擁する。

ジョウガタケ　城ヶ嶽　→カブトヤマジョウ　甲山城。

ジョウガネヤマジョウ　城ヶ根山城　鳳至郡西大野の西方小石濱の海岸に在つた。三方絶壁にして甚だ急、東方纔かに山に連る。樋口某の居城であつたといふ。

ジョウガハナ　城ヶ鼻　鹿島郡能登島なる向田の部落東方に在る岬。

ショウカヒツダン　松下雜談　一册。大聖寺藩の醫草鹿蓮溪の著。漢文を以て篠原・塩屋・風谷・四十九院・片野・深田・富塚・那谷の地及び二三の人物に關することが載せられる。蓮溪の之を書いた時、偶江戸に召された爲後を繼けることを得なかつたといふ。

ジョウガミネ　城ヶ峰　河北郡森(今山森)の部落から西方にある山。高さ一八〇米。

ジョウガヤチ　城ヶ谷內　鳳至郡百成大角間の內の小字。

ショウガヤマ　しようが山　能美郡桑島の部落から遙かに東方に當る山。高さ一六二四米。地質侏羅系。

ジョウガヤマ　城ヶ山　鳳至郡安代原の部落から西北に近い山。

ショウカンザツチヨ　尙寬雜著　一册。奥村尙寬の疑事考略・落花流水編二種を集めたもの。前者は天明甲辰の跋語があり、鬼門考・天狗考・神無月考・和字考略より成り、後者は寬政四年夫人大音氏を失うた時の哀悼文である。

ショウガンジ　正願寺　江沼郡加茂にあつて眞宗東派に屬する。

ショウガンジ　正願寺　鹿島郡野崎に在つて、眞宗東派に屬する。山號は獅子山。

ショウガンジ　正願寺　鳳至郡金藏に在つて、眞宗東派に屬する。

ショウガンジ　勝願寺　河北郡磯部にあつた眞宗寺院。官地論に、木越の光德寺・磯部の勝願寺・吉藤の專光寺・鳥越の弘願寺を四頭としてゐる。越登賀三州志に、勝願寺世本正安寺に作るは非である。今越後高田に住する西派瑞泉寺これであると記する。因つて高田瑞泉寺の寺記を按ずるに、開基善性は親鸞の門下で、下總河邊村に勝願寺を建て、文明十六年信濃水內郡南條村に移り、慶長十五年松平忠輝に招かれて越後高田に轉じ、延寶元年瑞泉寺と改めたとあつて、その間加賀に在つたことを傳へぬ。されば等しく磯部の勝願寺なるも、これは下總から出たもので、加賀のそれとは別であらう。

ショウガンジ　照願寺　羽咋郡佛木に在つて、眞宗東派に屬する。

ショウガンジ　松岩寺　鳳至郡曹洞宗總持寺の內に在つて、天正五年雄祝の建立。同山內傳法庵に屬したが、今既に廢絶に歸した。

ショウガンジ　常願寺　江沼郡潮津に在つて、眞宗東派に屬する。明治三十七年三河國幡豆郡家武から移つて來た。

ショウガンジ　常願寺　石川郡下柏野に在つて、眞宗東派に屬する。

ショウガンジ　淨願寺　石川郡美川に在つて、眞宗東派に屬する。もと道場であつたが、明治十二年五月寺號の公稱を許された。

ショウガンジ　淨願寺　河北郡千木に在つて、眞宗東派に屬する。明治二年寺號の公稱を許された。

ショウガンジ　淨願寺　河北郡北川尻に在つて、眞宗東派に屬する。

ショウガンジ　淨願寺　鹿島郡伊久留に在つて、眞宗東派に屬する。

ショウガンジ　淨願寺　鳳至郡輪島に在つて、眞宗東派に屬する。もと同郡稻舟村に建立、明暦二年今の地へ移つたといふ。

ショウガンジ　乘願寺　蓮如物語に、『文明の比坂東に御修行あり。第二番の時は加州河北郡横根村乘願寺といふ所に三ヶ日逗留あり。その內に夕暮に佛法侍といふ島來て三聲鳴、不思議なる事と各申あへり。』と見える。この乘願寺は横根の乘光寺の誤であらうといはれる。

ジョウガンジ　乘願寺　能美郡田子島に在つて、眞宗東派に屬する。もと小松に居り、明治初年から寺號を公稱し、三十二年今の地に移つた。

ショウガンシエン　松岸旨淵　曹洞宗の僧。加賀の人。大乘寺に瑩山紹瑾に依り、後永光寺の明峰素哲に參した。既にして法筵を播磨の永天寺に開き、次いで越中の光禪寺に住し、正平五年大乘寺に移り、幾くもなく永光寺に主となつた。孝恩寺の能登に創められとき、松岸その第一代に居り、正平十八年六月五日寂した。

ジョウギソウ　常義倉　文久三年鹿島郡所口(今七尾)に於いて、饑災凶歉に備ふる用米貯藏の爲、三間に九間の納屋を建築し、之を常義倉と名づけた。

ショウキノウマジルシ　鍾馗の馬標　天正十二年末森の役後前田利家は、奥村永福が守城の功を全くしたを賞し、鍾馗の馬標・切裂の腰指・佩刀及び黃金若干を與へた。この鍾馗の馬標は、もと武田信玄の有であつたのを、その臣上原隨應軒に與へ、それを隨應軒の孫藤五郎から利家に上つたものである。長さ一丈二尺六寸、撓手は狩野永德と傳へられた。原物は既に焚けて、今模造したものが殘つてゐる。

ジョウギノカタナ　丈木の刀　氏房の作で、天正十年五月鳳至郡棚木城に楯籠り、長連龍に攻められて討死した長與市景連の帶した刀である。後連龍から前田利家に獻上し、名物となつた。葛卷昌興筆記に、『丈木の御腰物長さ二尺一寸五分、中切先にて樋あり。タイハヒラミ也。』とある。